

厳島神社：能舞台

これらの能面、衣装、道具は、この伝統芸能と厳島神社との深く、変わらぬ関係を思い起こさせます。能が初めて宮島で上演されたのは 1568 年のことです。強力な毛利氏が島と中国地方（本州の西端部分であり、現在の広島県を含む）全体を支配していました。当地の以前の支配者たちと同様、毛利氏は厳島神社を敬い、保護しました。これには、能を含む芸術振興が含まれました。能は武家のあいだで特に人気があったのです。

宮島では、能は初めのうちは間に合わせの舞台上で上演されていました。しかし、人気の高まりを受け、恒久的な舞台を作る必要がまもなく生じました。1605 年に舞台は完成し、それ以来、島で能舞台が維持されてきました。厳島神社にある現在の舞台は、水上にある日本唯一の能舞台であり、1680 年のものです。重要文化財に指定されています。毎年 4 月 16 日から 18 日まで開かれる桃花祭の一部として、神能（厳島神社の神に捧げる能）の上演が舞台で行われます。